



発達障害の方への支援

中枢神経系の障害で、生まれつき認知やコミュニケーション、社会性、学習、注意力等の能力の偏りにより、生活に困難をきたす障害をいいます。



主な症状と分類

3

各障害別支援例／支援機器／災害時の対応

自閉スペクトラム症/ 自閉症スペクトラム障害 (ASD)	社会的コミュニケーションと社会的相互作用の困難さに関する特徴と、行動や興味、活動が限定されて、反復的なパターンを有する特徴を幼小児期から継続して持ち続けている障害。その他にも、特定の感覚刺激に対して、過敏であったり、鈍感であったりするといった感覚異常の人もいる。自閉症、アスペルガー症候群、広汎性発達障害等の診断を受けている学生もASDに含まれる。
注意欠陥・多動症/ 注意欠如・多動性障害 (ADHD)	注意力に障害があり、多動等の衝動的な行動をコントロールできない障害。注意力には、持続すること、いくつかの対象に注意を分配できること、状況に応じて転換できることの三つの側面があり、それぞれの障害から、提出物が期限に間に合わない、大きなミスをしてしまう、遅刻が多い、複数の課題をこなせない、物を失くしやすい、落ち着きがない、待てない、並べない、衝動的で余計なことをついでしてしまうなどの行動上の問題が起きる。
限局性学習症 / 限局性学習障害 (SLD)	知能など他の能力に問題はないが、「読む」、「書く」、「計算する」のいずれか一つ、あるいは複数に著しい困難がある障害。



困難なポイントと支援例

履修計画が立てられない	・履修登録支援
決まった席でないと座れない	・座席配置の調整
聴覚過敏があり先生の講義が聞こえない 周囲の雑音が気になり授業に集中できない	・補聴援助システムの貸出 ・ノイズキャンセリング ヘッドホンの貸出
話を聞きながらノートを取るのが 困難である	・板書の撮影許可 ・スマートペンの貸出
期限までにレポートを提出できない	・提出期限の延長 ・時間管理スキル指導
(卒論など)テーマを決められない	・担当教員による綿密な面談